

ワークショップ進行シート

作成日： 2018 年 7 月 31 日

タイトル：君の英語、私の英語、みんな違ってみんないい

ファシリテーター（グループ）：室本千尋、田中沙也加、宮本裕太、中條恵深留、吉川琴音、
木村沙帆、高橋美紅、玉橋利沙、金子楓、吉岡綾子

1：本ワークショップの要旨

世界の多種多様な英語の発音の中で、日本の“Japanese English”に焦点を当てる。日本ではネイティブ発音の方が優れているといった認識が強い傾向にあり、英語を積極的に“使う”ことが難しくなっている。そこで、導入として世界の様々な英語の発音をクイズ形式で知ってもらおう。そして、英語を第二言語とする外国人を登場させた劇などのアクティビティを通して、カタカナ発音も英語のアクセント(訛り)の一種であることを感じ取ってもらい、「英語を使う目的」を生徒たちと共に考えていく。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

- ・世界にはいろいろな英語が存在していることを知ってもらう
- ・それぞれの英語の差異には優劣はないということを知ってもらう
- ・英語の差異に優劣はないのだから、自信をもって英語を学んで使って行って欲しいということを伝える

3：本トピックをとりあげる理由

今日の日本の英語教育では、英語の4つの要素、リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングのうち、受験のための英語としてリーディング・ライティングが重要視されがちである。また、学習する英語もアメリカ英語かイギリス英語など偏りがあることが多い。グローバル化が進む現代において、様々な国の人が話す多種多様な英語に対応する必要がある、とりわけリスニング・スピーキングの力が求められる。そこで、本ワークショップではスピーキングの助けとなるリスニング、とりわけ世界の英語に焦点を当て、英語には様々な種類があることを共に学んでいく。そうすることで、英語への興味を引き出すこと、積極的に英語を使う自信につながるが見込める。

4：活動過程 (使用時間： 90分(休憩10分含む) 参加人数：)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・説明・動きなど	ねらい	使用する教材・備品	予想される反応・その他、注意事項
--------------	------	----------------	-----	-----------	------------------

<p>導入 :起 (10 分)</p>	<p>Duck Duck Goose</p>	<p>オニ役となる Fox (キツネ) を一人決め、キツネ以外の生徒は円になって中心を向いて立つ。キツネは「Duck!」と言いながら、円になっている生徒の肩をタッチして回る。最後に誰かの肩を「Goose!」と言ってタッチする。「Goose!」と言われた人はキツネを追いかけ、キツネは Goose と言われた人から逃げる。(時計回りで円の外周を回る) 「Goose!」と言われた人が一周するまでにキツネよりも先に空いた場所 (Goose が元いたところ) に戻れなければ、その人が次のキツネになる。キツネよりも先に元いたところに戻れば、キツネはもう一度キツネを続ける。 ルール説明等は英語で行う。また、ゲームは 2 回行う。</p>	<p>大学生と WS を受ける側の学生との間の緊張をほぐす。</p>	<p>プロジェクター スクリーン 走っても平気な 恰好</p>	<p>楽しい、</p>
-------------------------	------------------------	---	------------------------------------	---	-------------

--	--	--	--	--	--

<p>展開：承 (15分)</p>	<p>世界の英語クイズ</p>	<p>世界の英語に関するクイズを数問用意し、生徒側に答えてもらう。答え方は、クイズを選択肢制にして、「A だと思う人は右側へ、B だと思う人は左側へ」などと説明し、実際に生徒に動いてもらいながら進める。</p> <p>クイズの内容は2種類あり、1つはある和製英語に対して二つの写真を用意して、その単語がネイティブの英語話者に対してはどちらを示すのかを当ててもらうものを用意する。もう1つは様々なアクセントの音源を聞いてもらい、どこの国の英語か当ててもらうものを用意する。</p>	<p>次の活動の劇を見る前に、事前知識としてアメリカ発音以外にも様々なアクセントが存在することを知ってもらう。</p>	<p>スピーカー</p>	<p>聞いたことのないような英語の発音に戸惑う、教育現場で頻繁に使われているアメリカ英語以外にもさまざまな英語があるということに気づく</p>
-----------------------	-----------------	---	---	--------------	---

<p>発展：転 (35分)</p>	<p>劇(選択参加型)、 話し合い</p>	<p>大学生側が、『日本人とブラジル人、イギリス人、シンガポール人がシェアハウスをしている』という設定で劇を行う。 劇ではそれぞれの国の人が自国のアクセントで思い思いに話す様子を表現し、それに対し発音に自信がなくうまく喋れないことに悩む日本人の様子も表現する。劇中で「なぜ日本人は英語を使うのに消極的なのか？」と問われた際には生徒にも理由を考えてもらい、出てきた理由に対して自身にも当てはまる場所がないか考えてもらう。 また、登場人物のセリフを2択に分け、生徒側を選んでもらい、話の内容を生徒側が決められるようにして進める。2つの選択肢に対して、班ごとに選択肢の記号が書かれた札を配り、それらを掲げてもらって多かった方のセリフを言っていく。 劇は4場面用意し、場面ごとに班で劇を見て思ったことを、大学生を交えて意見を出し合う。</p>	<p>英語を第二言語とする者の多くが、ネイティブのような発音でなくても積極的に英語を用いてコミュニケーションをとっているという事を感じ取ってもらおう。 話し合いでは、「ネイティブのような発音にこだわらなくてもいい」「違いはあれど優劣ではない」といったことを引き出す。</p>	<p>筆記用具 話し合いの紙 (下敷き等)</p>	<p>学校で習う発音や言い方と違う、発音に違いがあってもみんな積極的に話している、お互いが異なる発音・アクセント。言い回しを認め合っている、など</p>
------------------------	---------------------------	---	--	-----------------------------------	--

<p>まとめ : 結論 (15分)</p>	<p>振り返り、 レクチャー</p>	<p>活動を通じて知ったこと、感想などを付箋に書いて班ごとに紙に貼っていってもらおう。時間があれば他の班の感想も見てまわってもらおう。 最後に、WS で伝えたかったことなどを大学生側が簡潔にまとめる。</p>	<p>付箋に書いて可視化することで意見・感想を共有しやすくする。</p>	<p>付箋 付箋を貼る紙</p>	<p>差異に優劣はないということに気づいた、英語にもっと積極的に触れたくなった、など</p>
--------------------------------	------------------------	--	--------------------------------------	----------------------	--

5 : 会場のセッティング

6 : 使用する教材

7 : 参考にした資料

8 : その他

